

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あらた
(ユニット名)	2F あじさい
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市荒田1丁目51-14
記入者名 (管理者)	岩下 広美・岩崎 麻衣 (領家 知香子)
記入日	平成 21年 9月 8日

(様式1)

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族と地域のつながりを大切に…」を目指す独自の理念をかかげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・指導者は申し送り時やミーティング時に理念に基づいた事例を通して提唱し理念の実践を日々のケアへ取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	季節ごとに発行しているホームの新聞に理念を掲載し、ご家族に配布している。また、地域へは歩道の掲示板に掲示したり民生委員にも配布し理念の浸透につとめている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	納涼大会等ホームの行事にも参加してもらっている。また散歩時には、隣近所の人に声をかけてもらい日頃から付き合いが深まりいつでも立ち寄ってもらえるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し月1回の地域清掃に参加して町内会行事・小学校行事にも参加して地域の方々と交流を深めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の認知症・高齢者家族の悩みなどの相談窓口を設けている。AEDを設置し地域もご利用できるよう発信している。又、AEDの講習を受けていつでも協力できるような体制を築いている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え時間をかけて自己評価に取り組んだ。その結果日々のケアを振り返り気づきを良質なケアへとつなげる事が出来ている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施しホームの運営などガラス張りでの報告をしている。貴重な意見・要望を受け入れ運営・ケアサービスに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は積極的に市の担当者を訪ね相談・助言を得てサービス向上の為連携を取っている。市の介護相談委員の訪問もある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に必要な利用者はいないが、内部研修に参加して知識としては全職員得ている。必要な利用者がおられた時は支援できる体制は整っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束廃止委員会で虐待防止に関する事も検討している。また、言葉の虐待についても話し合い虐待の防止につとめる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族が安心して利用できるように理解・納得して契約につなげている。入居前の説明を文書にて具体的に話している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしで特にお茶、食事の時間を利用し利用者の意見を引き出し利用者の「生活の向上に」つなげている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に健康・金銭等を報告し閲覧印をもらっている。特変時には、その都度連絡している。職員の異動等にはホームの新聞で知らせている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満等は勿論のこと、相談・苦情窓口を明記「ご意見箱」の設置また、家族交流会等での意見・要望などを運営推進会議で報告説明し貴重な意見として運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、管理会議・全体ミーティングで職員の意見など言い合える、風通しの良い機会が設けられている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤職員が多く臨機応変に、勤務調整ができているため、利用者・家族への対応は十分に可能。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	運営者は人的環境が利用者に影響を与えることを理解している。離職者がいても話し合いを設け利用者へのダメージを極力影響を与えないような環境を作っている。	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	指導者を配置し計画的に内・外部研修を強化している。受講後は報告書に記入して全職員で共有している。職員が働きながらスキルアップできるよう推進しその為の時間も配慮されている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県のGH連絡協議会に加入し、研修参加の折他のホームの人達と交流意見交換し見学につないでいる。サービスの質向上に積極的に取り組み研修生も受け入れ意見交換や交流もしている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者はミーティングなどで何でも話せる環境を作り、時には個別面談でストレスを軽減するように努めている。開設して4年目明るく楽しい職場作りを目指している。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修に交代で参加出来るよう配慮され個々のスキルアップが計れるよう又、資格取得が出来るよう働きかけている。いつでも学べるような勤務体制であり相談があると気持ちよく対応して向上心をととても大切にしている。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族が見学、相談来訪その後利用者本人も来訪されお茶場合によっては昼食して頂き、少しづつ不安のない環境で傾聴に心掛けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談後、又利用までに数回にかけて家族から多くの意見を聞く機会を作り安心して入居できるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人、家族の要望を聞き生活ニーズを引き出しながら適切な対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば本人・家族に見学に来てもらっている。又、情報把握に努め利用者の視点に立った支援をし徐々にホームに馴染んでもらえるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対し家族のように接する様な思いで支援しており、食事作りの場面では利用者からの助言、昔の大切なマナーなどを学ぶ事が多い。配膳、片付け等利用者のできることを、したい事をしてもらい感謝の言葉を忘れないように努め、共に支え合う環境を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いなどを十分に聞き、利用者中心に家族と一緒に話ながらお茶を飲んだり又、行事参加を呼びかけ共に支え合う環境を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時は、居室でお茶を飲みながら触れ合いの時間を作り、利用者と家族の時間を大切にす環境作りの支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	懐かしい住み慣れた自宅、地域の散策に出かけたり馴染みの美容室を利用し、友人が気軽に立ち寄り、お茶を飲みながら談話できる支援に取り組んでいる。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事・お茶・レクリエーションなどを通して利用者同士が共に生活する仲間と意識しお互いを誉めたりねぎらったり支え合える関係が築かれている。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者を訪問、入院中の場合は面会に行きつまでも大切な関係を継続している。家族からの相談事も受け入れて一期一会の関係を大切にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者どゆっくりと向き合う中で一人ひとりの思い意思を常に受け止めている。思いを伝えられない入居者はサインで気づくことを大切にし利用者の視点に立ち感じられるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、センターシートを作成し、それに基づき今までの人生歴等を情報収集し把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し利用者の状況を統合的に把握している。又、生活機能の視点でも利用者を理解している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き職員の日々のケアでの気づきを反映した個別・具体性のある計画を作成している。また、医療ニーズの高い方は主治医からの意見を含めた計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期・長期目標に応じて利用者、家族と評価し見直しを行っている。状態変化に応じて随時見直しプランを作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録（個別）、健康の記録等に日々の健康、病院受診などケアの実践・結果・気づきを個別に記録して情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関等への受診時・マッサージ師・訪問歯科等の個別の要望に応じて柔軟な支援をしている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせる支援の為、民生委員・警察・地域住民など地域資源との協働を大切に支援している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者・家族の希望に応じ訪問理容サービスを利用したり、外食・葬儀出席などの支援サービスを提供している。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加頂き、その機会に情報交換・協力関係を強化している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族のかかりつけ医への受診希望を大切に又、事業所とかかりつけ医との関係を築き適切で「質の高い医療」が受けられる支援をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい施設長や指導者に相談し指示を得て適切な治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師、かかりつけ医の看護師による利用者の日常の健康管理が充実され、早期発見・早期対応が整ってる。看護と介護の連携も良好である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族から入院中の状況を伺い情報交換し又、職員が見舞いに行き本人とコミュニケーションを取ることで、安心感を持って頂けるよう努める。又、医療機関とも細かい情報を共有して早期退院につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、医療連携加算に基づき看取り指針を定めており、入居時に本人家族に説明・同意を得ている。職員も重度化看取りに関しての認識をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ミーティングなどで主治医・指導者より重度化終末期ケアについての内部研修も終え、終末期に対する体制も確立している。今年3月「ホームでの看取り」を体験した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境変化はダメージが大きく周辺症状が 発症するなど、職員は認識している。生活環境変 化によるダメージを最小限に食い止めるために、 家族・職員で情報交換・共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	プライバシー保護マニュアルに基づいて、内部研修 を実施し、日頃の言葉かけ・ケアにも十分配慮し ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	利用者が自由に希望を表出できる環境にあり、表 出できない方はサイン・シグナルなどで感じ、利 用者の自己決定権を尊重している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	一日の生活の流れはあるも利用者一人ひとりが自 分らしく過ごせるよう配慮され「自由な暮らし」 の環境を大切に支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	朝の身だしなみ衣類は本人と一緒に選んでいる。 家族と理容室に行かれたり、訪問理容の際、本人 の希望が聞き入れられるように努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のニーズが食であり、その楽しみをととも 大切にしている。できる人は盛りつけ・配膳・下 膳など職員と一緒にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が好む物を食べられたり、ビールが飲めたり、一人ひとりの希望を大切に受け入れ楽しみあえる日々を過ごして頂いている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の個々の排泄を十分にアセスメントし個々に合った排泄支援、失敗のないいつも気持ち良く排泄できるよう支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているも、利用者の意思を大切にしている。入浴日以外も本人の希望により入浴出来る環境を整えて気持ち良く入浴を楽しめるように支援している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を大切に生活のリズムが整うように努めている。一人ひとりに合わせてリラックス出来る時間を作り緊張や疲れを溜めないよう支援している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活機能の視点で、できること、例えば家事・片付け、季節に応じた梅干し、らっきょう漬などを利用者の【昔とった杵柄】を発揮し達成感を味わっていただいている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの力量に応じて家族と相談しながら、本人に金銭管理を行ってもらっている。買い物等に行くときは、本人が支払えるようさりげない言葉かけをし、自立できる支援を行っている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により、公園のハトに豆などの土産を持って遊びに出掛けたり、買い物へ行ったりと外出する機会を日常化している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事予定で花見・ソーメン流し・コスモス見学・外食など実施し、家族の参加もある。個別では家族との外出・外食も多い。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人にいつでも電話が出来るようになってきている。季節によっては手紙・ハガキを職員の支援をもらい投函している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず、家族や知人などがいつでも訪問しやすいよう心がけている。訪問時はお茶接待などで居心地良く過ごして頂ける環境を作っている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの目指す個別ケアの中で身体拘束は、ありえないと職員は意識を高く持っている。開設4年目、身体拘束ゼロを維持している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は「鍵をかけないケア」を当たり前のこととして玄関は自由に入出入りでき「鍵をかけないケア」を目指している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者と同じ空間で過ごし時には記録を行いさりげなく自然体で利用者の状況を把握し安全な環境を大切にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことはせず、一人ひとりの状態でリスクマネジメントし自然な環境を大切にしている。包丁は夜勤者が本数を確認し記録している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止、安心・安全に生活していただく為に内部研修も実施。安全対策委員会でのヒヤリハット・インシデント報告・防止対策も検討され、個別のリスクシートを作成し事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が毎月19日に応急手当・救急救命法の講習会へ参加し全職員が急変に対応出来るようにしている。AEDを設置し講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防火訓練を行っている。また日頃より警察署（交番）、地域の分遣隊、地域住民と交流を深め地域の力を得られるようにしている。非常用の食品・飲水も準備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	担当者会議でリスクの高い利用者の家族に主治医より説明をして頂いている。ケア現場でも家族へ説明・連絡し適切な対応し安心に暮らせる対応策を講じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで利用者一人ひとりの健康状態を把握し異常があれば主治医・管理者・看護婦へ報告するとともに全職員は情報を共有し速やかな対応をしている。観察・気づきの重要性を看護師より指導を受けている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の副作用」をファイルに綴り職員は利用者の薬の目的や副作用について理解している。また副作用による変化も適切に把握し適切な服薬管理が実施されている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事は繊維の多い食材、水分補給などに気をつけている。また活動（散歩や軽体操）で身体を動かすなどで自然排便に繋げるよう取り組み記録にも残し予防を重視した取り組みを実施している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内を清潔にする事は生命の質を高める事だと職員は認識し、食後の口腔ケアは欠かさず個別性をとらえた口腔ケアを実施している。歯科医による口腔指導も受けている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェック表に記録し職員が情報共有している。食事の好き嫌いは本人・家族からの情報をもとに対応し嚥下・咀嚼の低下がある人は症状に応じて対応している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルに防止対策を作成し定期的に委員会を開き早期発見・早期対応に努め蔓延防止している。例えばインフルエンザの予防接種は利用者・職員も接種している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は、いつも清潔管理し、冷蔵庫も定期的に点検・掃除している。又、冷蔵庫を過信しないように職員には徹底されている。ハイター・日光消毒を利用していつも衛生面に力を入れている。食材も「まとめ買い」をせずに新鮮さを大切にしている。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りはプランターに季節を感じる花を植えている。玄関口は、ベンチや絵を飾ったり掲示板を設置し、いつでも安心して気持ちよく出入りできる玄関空間を大切にしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は対面式の台所で声かけも自然にでき、テレビも大きなスクリーンでよく見えるようになっている。畳部屋もあり心が落ち着く居心地よい空間である。テーブルにはいつも季節の花を飾り季節を感じられる工夫をしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに一人でゆっくり腰掛けたり又、数名の利用者と腰掛け、会話もはずみ、心やすらぐ場となっている。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境は本人・家族・職員とも話し合いながらテーブル・椅子・タンス等利用者が使いやすいように配置している。また、家族の写真を飾り利用者が安心して居心地よく生活出来るよう工夫している。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	住環境にも配慮し、ほこりのないホーム、換気もまめにし、美味しい空気を吸ってもらっている。温度計をリビング・居室に設置・室温・湿度にも配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	各場所（浴室・廊下・トイレ・階段等）に手すりを設置し、残存機能を活かし安心・安全に配慮しながら自立した生活が送れるように支援している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・風呂場等が分かりやすいような札をかけている。居室入り口も利用者が分かりやすいように、のれんや表札で工夫している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前・ベランダに花鉢を置いて水まきをしたり、花を眺めて楽しまれている。また、屋上では景色を眺め洗濯物を干したりなどで活動できる場としている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ②ほぼ全ての利用者の ③利用者の2/3くらいの ④利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ②毎日ある ③数日に1回程度ある ④たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ②ほぼ全ての利用者が ③利用者の2/3くらいが ④利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の意思決定を尊重し、利用者中心の生活があり日々尊厳保持を大切にケアを方針としている。又、ケアを支える各委員会も充実し、ケアの質を向上する為の助言も得られる環境で職員のスキルアップにも繋がり、気づきを大切にしながらケアを進化している。